

風力発電推進プロジェクト 5年間の歩み



MELON では 2001 年度に風力発電推進プロジェクトを立ち上げ、宮城県内における風力発電事業の可能性を見極めるための調査研究、市民参加型風力発電事業の研究、関係する方々・機関とのネットワークづくりを目標に活動を進めてきました。2004 年度には、七ヶ宿町との協同で 1 年間の風況調査と分析を行いました。この活動により、当プロジェクトで掲げた当初目標は達成することができました。

プロジェクトを立ち上げた当初は、風況に関してアメダスのデータ以外に、県内自治体を実施した 3 ヶ月間程度の調査結果しかなく、年間を通じてどの程度風力の資源量があるかについて具体的な情報がありませんでした。プロジェクトの活動により、七ヶ宿町において風力の資源量を正確に把握すること

ができたことは大きな成果といえます。

5 年間さまざまな調査・研究を行った結果から、MELON としては宮城県内で風力発電事業を行うのは困難であり、現時点では実現性はないと判断しました。風力発電推進プロジェクトは 2006 年 3 月をもって発展的解消することになりますが、MELON では今後も宮城県における自然エネルギーの普及のための活動を行って参ります。活動を通じて地域とのつながり、関係者とのネットワークの充実を図ることができ、また地域から環境を考え、ともに行動していく方々とのつながりを作れたことは大きな収穫と考えており、今後も大事にしていきたいと思えます。



MELON20周年をめざせ！

第 10 回目の執筆



橋博昌さん
(和歌山県地球温暖化
防止活動推進員)

約 3 年前、TV 番組で森づくりをしている方を見て思った。「厳しいが、真の強さ・優しさを持つほんものだなあ」と。宮脇昭氏(国際生態学センター研究所長)だった。環境問題に全く興味のなかった私には、強烈なインパクトですぐに環境に関する活動をする決めた。

同氏の口癖は「本物は厳しい条件に耐えて長持ちする」「好きなものも嫌いなものも混ぜる混ぜる混ぜる」。いずれも植物生態学者として行き着いた哲学であるが、人間社会に当てはめても理に当たると思う。

同氏の森づくりを私の住む田辺市でもして欲しいと思い、3月5日に田辺市で講演いただくことになった。熊野古道が世界遺産に指定された土地柄、森について関心ある方は多く、森の再生に取り組む団体も多い。私も地元の団体で木を植えた。しかし、

50人リレートーク

ほとんど個々のもので意見や手法の違いで不仲な団体もある。それは、確かなノウハウがないからだ。方法が違ってても緑回復には、植える土地を慎重に調査し土地に合った木を植えるべきだと思う。

土地本来の森(木)は、災害に強く長持ちし温暖化防止に効果がある＝。作り方は、土地本来の樹種を何種類も混ぜて植える＝。これをつくるには、植生図が重要となる。を森づくり活動に当てはめ、目的が同じ活動団体や住民が認め合い協力すれば、熊野の森再生も実現可能だと思う。先入観がなくしがらみを知らない 27 歳の私は、若者とそれらを繋げていきたい。ほんものの森はきっとできる。

..... 次号予告

次は、中村美由紀さん。

ダイバーとして海中の環境保全活動をされている方です。

